

『里山資本主義』のススメ

NHK 報道局 チーフ・プロデューサー 井上 恭介

① 「里山資本主義」とは（20世紀の常識から21世紀へ 転換のキーワード）

▽「マネー資本主義」一辺倒に異を唱える「里山資本主義」

- ・リーマンショックと東日本大震災で気づいた「完成された大きなシステム」の危うさ
- ・20世紀という「分業」と「分断」の時代への疑問

▽「エコストーブ」に見る、里山資本主義の思想と理想

- ・活かされない身近な資源「山の木」を活用 正式な「経済」→私的な「生活」
- ・廃品である「ペール缶」を手作業で改造・製作 完成したものを与えられる→自分で楽しみながら
- ・最先端炊飯ジャーよりおいしいご飯 進歩と発展しつづいた時代の「最先端」とは？

▽「ペレット」が問い直す、私たちの固定観念

- ・製材所の「産業廃棄物」がエネルギーに 「売り上げ」アップ→「支出」を見直す
- ・石油のように市場価格の乱高下がない 「グローバル」に隷属→自立した「地方」
- ・石油のように供給・宅配するオーストリアの「ペレットタンクローリー」 懐かしい未来！

▽「島のジャム屋」が打ち破る、市場の常識

- ・過疎と高齢化のミカンの島が「強み」 アンチ「都市が有利で田舎は不利」
- ・「少量であること」「品質が一定でないこと」が売り アンチ「均質大量生産による効率アップ」

② 里山資本主義が目指す域内循環

▽お年寄りが食べきれない「菜園の野菜」を高齢者施設の食事をまかなう

- ・市場に出せなくても、使える
- ・外にお金が逃げていかない
- ・一方的な「ケア」から、互いに役立つ関係へ

▽CLT が提案する「マッチョな20世紀」からの転換

- ・木の板を直角に貼り合わせるだけで、中高層建築が可能な強度
- ・「鉄とコンクリート」への反旗
- ・地元の木の活用で進む域内循環